

おやき賞味し  
昔を思い出す

小椋 町子(倉吉市  
丸山町、58歳)

時折、倉吉市内の「赤  
瓦」を観光客気で散  
策し、気分転換をはか  
ります。新しく「おや  
き」の店ができたとの  
ことで、お盆前にやっ

と念願がかない、賞味  
しました。昔風なシン  
ブルなものや斬新なお  
やきも。サトイモが練  
り込んであり、ほっこ  
りとした風味でした。  
4月に亡くなられた  
近所のおばあちゃん  
が、よく作ってくださ  
った「おやき」を再び  
味わいたいという強い  
思い入れがあります

た。98歳で永眠されま  
したが、生前「100  
歳まで生きるよ」と  
しっかりとした考えと  
行動力で、良いお手本  
でした。聞くところによ  
ると、若いときから  
女性の立場や地位向上  
にご尽力され、芯が強  
く厳しい方だったよう  
です。そのおばあちゃ  
んのおやきがシンプル  
な中にも香りが高く、  
味わい深かった思い出  
があります。  
古き良きものが次第  
になくなっていく寂し  
さが、時代の移り変わ  
りと盆月のせいも、身  
にしみて感じます。今  
度はおやきを炉端でい  
ただいてみようかな  
。